

1 学校教育目標	
教育目標	校訓「明日へ」の理念のもと、教育目標である「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を柱として、活力ある学校づくりを推進し、主体的に自己実現を図る生徒の育成をめざす。
中・長期目標	単位制の特色を生かして、心身の調和のとれた発達と個性の伸長、学力の向上や進路の実現を図る。保護者や地域との連携を深め、地域に開かれた信頼される学校づくりをめざす。

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)	
<p>本校は、教育目標に「自らに誇りを、友に誠を、人生に夢を」を掲げ、単位制の利点を生かしながら、生徒が明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組み、将来の厳しい社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力の育成を目標にしている。生徒の授業態度は真面目であり、部活動や学校行事にも熱心に取り組み、節度ある行動や態度をとることができている。一方、おとなしくて積極性に欠ける面も見られる。校内の指導体制は、分掌・年次の連携のもとで、基本的な生活習慣の確立及び学習習慣の定着を目指し、あいさつ運動や身だしなみ指導、主体的で対話的な授業展開や週末課題での指導等が全校体制で組織的に行われている。また、キャリア教育年間指導計画に基づき進路指導も適切に行われ、生徒の進路意識が高まるとともに、卒業後の進路実現にもつながっている。今年度も引き続き進学クラスを設置し、進学指導を推進する。平成30年度に取り組んだカリキュラム・マネジメント研修モデル事業を通じて、失敗経験からも前向きにチャレンジできる生徒、コミュニティ・スクールを活用した地域への興味・関心を高める生徒の育成の大切さを、全教職員で認識した。今後とも、全教職員の協働体制により、以下の取組を進めていきたいと考える。</p> <p>①基礎学力の定着を図るとともに、進路目標をしっかりと持ち、夢の実現に向けチャレンジし続ける生徒を育成する。 ②部活動運営方針に基づく活動を通して、心・技・体のバランスのとれた、心身ともに健康で自己指導能力をもつ人間を育成する。 ③地元企業・大学・関係機関等と連携して教育の質の向上を図るとともに、地域貢献活動を通じて地域のよりどころとなる学校づくりを推進する。 ④教職員が業務の改善・見直しを進める中で、自らの授業を磨き、人間性や創造性を高めるとともに、その土台となる心身の健康の保持増進を図る。</p>	

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題	
<p>1 基礎基本の徹底とキャリア教育の充実 2 部活動の充実 3 コミュニティ・スクールを活用した地域連携の推進 4 業務改善による教職員の資質向上と健康増進</p> <p>チャレンジ目標・・・3つの「間」を大切にしよう ～時間・空間・仲間～ ・時間に余裕をもちよう ・学習環境を整えよう ・思いやりを忘れずに</p> <p>1年次目標 進路実現のため自己を成長させよう 2年次目標 社会と自分との関係を考えつながりを持とう！ 3年次目標 徳は孤ならず。必ず隣有り。</p>	

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	○教員の資質及び指導力の向上	年次や教科の枠を超えて教育力を研鑽し、よりよい学習指導のあり方について取組を共有する。	4:教員同士の情報交換と研究協議の機会を5回以上設けた。 3:教員同士の情報交換と研究協議の機会を4回設けた。 2:教員同士の情報交換と研究協議の機会を3回設けた。 1:教員同士の情報交換と研究協議の機会を2回設けた。	4	11月の授業公開週間を中心に、相互の授業参観を通して本校の生徒の現状理解や授業力向上を図った。初任者研修、フォローアップ研修、県教委の学校訪問における研究授業及びそれらに伴う研究協議も随時実施した。さらに、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための休業中に生徒への配信用教材を作成するなど、新たな学習のあり方について、教育力が向上したと考えている。また、ICT機器、スタディサプリ等の導入に伴う情報交換と研修・協議も繰り返し行った。	○配信用教材を作成し、新たな学習スタイルを築いたことは素晴らしい。今後は対面の授業内容との結びつきを期待している。 ○中高での合同研修や授業参観ができると、生徒の学びが深まる。多様な進路選択と教職員の負担のバランスを取りながら実施できると良い。 ○担当者同士の情報交換が例年以上にできており、充実した業務運用となっている。 ○配信用教材の作成は、学び方への対応が大きく前進したのではないかと。今後は地域との連携への活用も期待される。 その他 ※ホームページの見直しによって、学校の情報発信がより効果的に行われると良い。	A
	○学務システムの共有と課全体の仕事力向上	単位制独自の授業の駒組の仕方や教務支援システムの運用等、教務課の業務全体に関わる勉強会を開く。	4:教務課業務に関わる勉強会を5回以上設けた。 3:教務課業務に関わる勉強会を4回設けた。 2:教務課業務に関わる勉強会を3回設けた。 1:教務課業務に関わる勉強会を2回設けた。	3	新型コロナの影響により業務が多忙を極め、教務課全体での勉強会は開催できなかったが、教務課内各班における担当者同士での業務運用のための情報交換とノウハウの共有については、例年以上に取り組めたと考えている。		
	○多様な進路に対応した教育課程の編成	学習指導要領改訂や大学入試改革を視野に入れた教育課程の検討を推進する。	4:新学習指導要領のもと多様な進路に対応した教育課程(案)が作成できた。 3:新学習指導要領のもと多様な進路に対応した教育課程(案)が概ね作成できた。 2:新学習指導要領のもと多様な進路に対応した教育課程(案)について、検討課題が残った。 1:新学習指導要領のもと多様な進路に対応した教育課程(案)について、多くの検討課題が残った。	3	教科会議、教育課程検討委員会、教務課内での研究協議等を例年以上に繰り返し、新学習指導要領に基づく教育課程となる、令和4年度入学生徒教育課程の作成に取り組んだ。来年度入学生員減による教員数減が見込まれるため作成は難航したが、一つの形を作り上げることはできた。来年度になってからも引き続き調整をしていきたいと考えている。		
生徒指導	○基本的な生活習慣の確立及び自己肯定感の育成	・身だしなみ指導と朝の登校指導とおして、生徒の基本的な生活習慣確立の第一歩としてあいさつの励行を図る。 ・校歌を大きな声で歌うことで自信と誇りを持たせ、自己肯定感の育成を図る。	4:全教職員の協力により、生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が十分に図られた。 3:全教職員の協力により、生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が概ね図られた。 2:生活習慣の確立は図られたが、自己肯定感の育成は十分に図られなかった。 1:生活習慣の確立及び自己肯定感の育成が、ほとんど図られなかった。	3	基本的な生活習慣の確立及び基本的なマナーの育成については、毎月一度の身だしなみ指導や毎朝の登校指導でのあいさつ、昼休みの校内巡視、定期的実施している校外巡視や通学列車マナー指導等、全教職員の協力を得て効果的に実施できた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で全校集会が制限されているため校歌を歌う等ができないが、今後も機会がある毎に創意・工夫をして自信や誇りを持たせる指導をしていきたい。今後も、生徒の心身の状態をしっかりと把握し、教育相談・SC・養護教諭等との連携を図って指導していきたい。	○行事中止は仕方ないが、生徒にとって一度きりの「今」をどのように形として残していくかは課題。 ○生徒のことを真摯に考え対応したことは高評価。 ○生徒会執行部を中心に活性化させた取組状況である。 ○校外で見る女子の制服スカートが短く感じる。自転車走行もスマホを使用しながらの走行に注意が必要。 ○委員会活動が充実していて良い。高校生のコンビニでのマナーが気になる。 ○体育大会を工夫して実施したことが良い。登校指導はPTAの協力を1回から2回に増やすことも検討。 ○生徒自らが自発的に挨拶をする習慣がつかると良い。	B
	○特別活動への主体的参加の推進	・生徒会執行部のリーダーシップを育成し、コミュニティ・スクールの地域貢献の機能を生かした生徒会活動や学校行事への積極的、主体的参加を促す。	4:生徒会を中心に各行事ともクラス全員の積極的な参加が見られ、活動が活発であった。 3:生徒会を中心に各行事が行われ、多くの生徒は活動に参加した。 2:行事によっては生徒の活動が不十分であった。 1:各行事でクラス及び生徒の活動が積極的ではなかった。	3	生徒会執行部を中心に各種委員会活動の活性化を図ってきた。各学期2回、常設委員会を開催し、学期目標を掲げ、全校生徒への呼びかけも行ってきた。今後も生徒の当事者意識・主体性を高めていくために、各種委員会活動を生徒全員に周知徹底を図っていききたい。学校行事への積極的な参加については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの行事が中止・縮小される中、生徒の自主的な活動の場面も多く見られ、目標は達成されたと考えている。特に体育大会では生徒会を中心に生徒達が熱く取り組み大きな成果があった。		

進路指導	○進路実現のための学力養成	・希望進路実現に必要な学力養成のため、課外授業実施・学習会実施・自習室解放等により計画的・系統的な指導を図る。	4: 様々な取組により、生徒全員の進路実現につながった。 3: 様々な取組により、70%以上の生徒の進路実現につながった。 2: 様々な取組により、50%以上の生徒の進路実現につながった。 1: 様々な取組は進路実現につながらなかった。	3	希望した進路に進むことができたという生徒の割合は88%であった。課外授業、学習会、自習室開放等も計画的・系統的に実施した。課外授業は放課後、長期休業中、学習会は長期休業中等に実施し、参加した生徒には好評であった。土曜日の自習室開放も28日実施した。しかし、模試等の結果をみると、進路目標に対して学力不足の生徒も多々おり、今後も継続的な学力養成の取組を更に進めていきたい。	○大学や職場でインターネットを利用した説明会が実施されている。可能な学外活動の在り方を検討してみるのも良い。 ○大学入試改革もあり、進学クラスへの対応を具体的にどのようにしたのか。結果や進学状況が気になる。 ○希望進路に進むことができた割合が88%で、教職員の努力が感じられる。 ○今後もキャリア教育の計画的推進のために協力したい。 ○進路にかかわらず、学び(考える力)を高められるような支援を期待する。	A
	○進路意識向上のためのキャリア教育の計画的推進	・面談(科目選択指導、進路指導等)・「総合的な探究(学習)の時間」・「上級学校見学」等を計画的に実施し、進路に対する意識を高める。	4: アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が80%以上であった。 3: アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が60%以上であった。 2: アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が40%以上であった。 1: アンケートで「進路に対する意識が高まった」との回答が40%未満であった。	4	アンケートの肯定的回答が、生徒97.8%、保護者93.2%であった。探究活動の発表や講話等の実施が進路意識を高める要因になっているのではないかと考えられる。今年度は、上級学校見学やインターンシップ等の実施が見送られたが、適切に進路指導を行うことができた。今後も本校の多様な進路の要望に応えられるよう内容を検討していきたい。また、生徒は学力相応の進路を考える傾向にあり、自己の在り方生き方を踏まえた進路目標を定めるよう指導していきたい。		
総務	○図書館利用の活性化	総合的な探究の時間やロングホームルーム、教科の授業での図書館利用の推進を目指し、新聞やキャリア形成の一助となるような本をさらに増やしていき、生徒に図書館の活用を「図書だより」などでアピールしていく。	4: 図書館を利用した生徒数が、年間のべ3,000人を超えた。 3: 図書館を利用した生徒数が、年間のべ2,500人を超えた。 2: 図書館を利用した生徒数が、年間のべ2,000人を超えた。 1: 図書館を利用した生徒数が、年間のべ2,000人を下回った。	2	図書館の年間のべ利用者数は2189人であり、昨年度同時期よりも500人近く減っている。これは、コロナによる休校の影響が大きいと考えられる。学校生活アンケートによると、本校図書館に対して肯定的な回答をした生徒は、昨年度よりさらに3ポイント増加し、95.6%となっている。一方、子どもの読書習慣について肯定的な回答をした保護者は昨年度より2.2ポイント増加したものの、29.8%にとどまっている。イベントの実施などで一時的な利用者数の増加は見られたが、読書習慣の定着は未だ課題として残る。今年度は夏季休業短縮により1・2年次を対象とした「読書ノート」の課題を出すことができなかったが、来年度は再び課題として出し、読書習慣の定着を図りたい。「読書ノート」県審査への応募は昨年度8人から10人に増え、優秀賞に1編入賞、読書感想文県審査においても優秀賞に1編入賞した。また、昨年度に続き、読書活動LHRでは、おすすめの本を紹介し合うビブリオバトルをクラス単位で行ったり、読書クラスマッチ、読書くじ、本の福袋などの企画も盛り上がりを見せた。さらに今年度新たに、図書室に入れる本を生徒会図書委員長・副委員長が本屋へ足を運び選ぶという取組をし、生徒の図書室利用増加を図っている。	○達成度が低いことは致し方ない。物を介しての感染がある中、どのように図書館利用を促しているか。 ○PTAの活動をYouTubeにアップロードし、保護者や生徒に周知することも可能。 ○読書ノートの県審査への応募が増えたのは評価できる。PTA行事も紙媒体の提出なら参加できる保護者もいると思うので、対面と議事承認用紙提出を併せて行うのはどうか。 ○図書に関しては利用者を増やすことも良いが、読書の時間を設定するののも一つの手段ではないか。 ○体育大会は今年度唯一のイベントであったため、同居の保護者だけでも参加を呼びかけても良かったのではないかと。 ○図書館利用に関して、従来のやり方を見直し、利用の活性化を図っているのが良い。	B
	○保護者との連携の強化	・PTA活動や学校行事に関する情報を、案内文書やメール配信等を通じて保護者に細かく伝え、PTA行事や学校行事への参加率を上げる。	4: 年次集会やPTA行事、学校行事への参加者が年間でのべ200人を超えた。 3: 年次集会やPTA行事、学校行事への参加者が年間でのべ150人を超えた。 2: 年次集会やPTA行事、学校行事への参加者が年間でのべ100人を超えた。 1: 年次集会やPTA行事、学校行事への参加者が年間でのべ100人を超えなかった。	1	今年度は三密を避けるため、第1回PTA評議員会は縮小して行い、PTA総会は紙面による開催とし議事承認用紙提出という異例の形式で行った。行事の目玉でもある明日葉祭、1学期クラスマッチ、その他の行事等も軒並み中止になったため、保護者の学校行事への参加機会がほとんどなかった。ただし、PTA総会(紙面開催)の議事承認用紙の提出率は全日制は約96%であった。近年のPTA総会への出席率の低下を考えると、非常に関心があったと考えられる。2学期に規模を縮小した体育大会があったが、保護者参加を呼び掛けていないため、PTA役員を中心とした少人数の見学であった。11月の授業公開週間や朝のあいさつ運動への参加者も数名であった。12月の東新川駅清掃活動は役員と評議員に絞って参加を募り8名の参加であった。2月下旬の第2回PTA評議員会も縮小して行うため参加者は少ない。来年度に向けて広報活動を他の分掌等と協力しながらやっていく方法を模索する必要がある。		
保健環境	○心身の健康の保持増進	・担任・校内コーディネーター・養護教諭・スクールカウンセラー等が連携し、心身のケアが必要な生徒の早期発見・早期対応に努めるとともに、全教員が情報を共有できる体制を充実させる。	4: 心身のケアが必要な生徒への連携した機敏な対応とともに、自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が充実していた。 3: 心身のケアが必要な生徒への対応と自己管理能力の育成につながる相談活動や保健指導が行われた。 2: 心身のケアが必要な生徒への対応と相談活動や保健指導がやや不十分であった。 1: 心身のケアも相談活動や保健指導もほとんど行われなかった。	3	全ての生徒が元気に安心して学校生活を送られるように教職員の情報共有、連携強化を図った。なかでも心のケアが必要な生徒の早期発見のために行う、「学校生活の適応感を調べるFitアンケート」と「教育相談アンケート」では、その結果を集計分析するとともに、スクールカウンセラーを交えてケース会議を行い、心配な生徒への迅速な対応を行った。また、学校生活アンケートでは「心身の健康やコロナ対策について相談できる体制ができている」の質問に対して93%の生徒から肯定的な回答を得た。今後も消毒殺菌、検温、マスク着用など新型コロナ感染拡大対策にも十分注意を払っていきたい。	○コロナ禍において一番心配なのは子どもたちの「心」である。多くの子どもたちが悩み苦しんでいることが考えられる。今後も継続したケアをお願いしたい。 ○教育相談体制の確立や校内美化についての積極的な取組が評価できる。 ○生徒、保護者の声に傾聴している点を評価している。 ○校内環境が整備されており、素晴らしい。 ○学校敷地などの全体の雰囲気は、とても明るくて良い。	A
	○学習環境の整備	・清掃活動の徹底とゴミの減量化を促進させながら生徒の環境意識の向上を図る。 ・花壇づくりなど校内美化に努め学習環境を整備する。	4: 清掃活動その他の美化活動が計画どおりに実施され、生徒の環境意識も高まった。 3: 清掃活動その他の美化活動がほぼ計画どおりに実施され、生徒の環境意識もやや高まった。 2: 清掃活動等が不十分で生徒の意識を高めるまでに至らなかった。 1: 計画のみにとどまった。	3	校内の環境美化は、校務技士の尽力によるところが大きい。学校生活アンケートによると全校生徒の約95%の生徒から「清掃活動に積極的に取り組み校内美化が行き届いている」に肯定的な回答を得ている。しかし、生徒の清掃活動は、指示されたことはできるが、自発的に率先できる生徒はまだ少ない。隅々まで校内美化が行き渡るよう全生徒と職員が協力し進めていく。花壇については、担当教員の指導の下、環境委員や掃除当番の生徒が良く活動し、1学期に土作り、苗の植え付け、水やり、除草などを行いとても美しい花を咲かせることができた。		

地域連携	○コミュニティスクールを活用した地域活動への主体的参加の推進	・授業、ボランティア委員などを通じて、生徒に積極的に活動を紹介します。地域活動への参加を積極的に促す。 ・活動の状況を情報発信する。	4. 10回以上計画し、活動状況を情報発信をした。 3. 6回以上計画し、活動状況を情報発信した。 2. 活動への生徒の参加がなかった。 1. 地域活動をおこなわなかった。	3	地域のボランティア活動に少しずつ参加できるようになり、最初は、JRC部の生徒等が中心であったが、生徒会の協力により、後半は2年生を中心に参加者が増えた。家庭科の専門科目を選択している生徒たちで、1月以降、お雛様カードを作成した。授業で「共助」の大切さ、地域の一人暮らしの高齢者の方、子育て支援、保育検定で取得した折紙技術等これまでの学びを使って、自分たちの成長を支えてくれた地域の方々に「高校生から春を届けよう」と企画した。一緒に活動をした子どもたちや地域の高齢者の方に、お渡しして喜んでもらえたらと考えている。ユニクロ「服のカプロジェクト」は、ボランティア委員を通じてクラスへの呼びかけを行った。生徒、教職員の協力で最終的には、241着の子ども服が集まった。メディアに取材をいただき、生徒の活動を広く周知できた。保育実習、福祉施設での実習はできなかったが、宇部フロンティア短期大学の先生に來校していただき、保育士の仕事や保育所での子どもたちの様子等について、講演をしていただいた。将来、保育士等を目指す生徒もおり、生徒に大変好評であった。	○互いを「思い合う」大切さを地域との交流を通じて実施されており評価できる。 ○地域や将来の選択の具体的なイメージにつながる活動をしていて大変評価できる。 ○学校とCS活動推進員が連携し、積極的に活動できている。 ○企業との連携を深めていくと良い。 ○コロナ禍で無理は言えないが、幅広い地域活動にできると良い。 ○地域との連携を感染拡大防止に配慮するだけでなく、メディアを通じて発信している。 ○地域住民と学校が連携して地域を盛り上げていく取組を増やすべき。	B
	業務の効率化	・会議時間の短縮、業務の精選、最終退校時間の相互啓発、ノー残業デーの設定、部活動の適切な休日確保、年次有給休暇の積極的取得等を推進するなかで、教職員のチーム力とタイムマネジメント力を上げ、業務改善を図る。	4: 年間を通じ1カ月の時間外業務時間が45時間を超える職員が全くなかった。 3: 年間を通じ1カ月の時間外業務時間が45時間を超える職員の割合が10%以下であった。 2: 年間を通じ1カ月の時間外業務時間が45時間を超える職員の割合が11%以上30%以下であった。 1: 年間を通じ1カ月の時間外業務時間が45時間を超える職員の割合が31%以上であった。 ※通常予見することができない業務量の大幅な増加は別途対応する	2	事前に資料を配布することで会議時間は大幅に減少できたが、教職員の時間外業務時間の削減が課題である。単位制のため、時間変更が難しく代休日の取得に苦慮している。学校再開後の6月以降に時間外業務時間が増加しており、月に45時間を超える職員の割合は年間平均29%で、特に6月、7月、10月の時間外業務時間が多くなっている。昨年度と比較すると、月に換算すると一人当たり毎月約6時間の削減となっているが、改善が急務である。教育の質を高めながら、業務の精選、前年踏襲の見直し、タイムマネジメントの徹底を図っていきたい。	○配信教材の作成等、時間外業務増加は致し方ない。来年度は教員間の連携に基づいた教材作成を期待。 ○会議時間の短縮は大いに評価できる。削減できる事項の検討を期待。 ○再検査受診率96%は、職務環境の調整に皆が協力的であることを示している。 ○教員数が減っても、単位制の特色をいかした学習指導の継続を期待する。 ○今年度はかなり教職員に無理を強いたようである。 ○教職員の健康管理の取組を継続することを期待。 ○子どもたちのための多忙な業務に感謝。	B
業務改善	○教育の質を落とさずに業務時間の短縮を図る						
	健康管理	・健康診断結果に基づいた健康管理を行い、面談等の機会を使いながら意識改革を行い受診率の向上を図る。	4: 再検査者の受診率が100%であった。 3: 再検査者の受診率が80%以上であった。 2: 再検査者の受診率が60%以上であった。 1: 再検査者の受診率が60%未満であった。	3	再検査者の受診率は95%であった。再検査者の項目内訳では、血液検査における脂質異常の割合が高く、「放置すると動脈硬化により脳卒中や心臓病等で死に至る」リスクを職員会議や面談等の機会に説明することにより、職員の健康管理に関する意識醸成に努めた。		
	○教職員の健康管理を徹底する						

A: 取組が優れている B: 取組がよい C: 取組がおおむねよい D: 取組に改善が必要

6 学校評価総括(取組の成果と課題)	
【成果】	<p>○学校生活アンケートでは「宇部中央高校に入学してよかった、入学させてよかった」割合が生徒97%、保護者95%で一定の成果をあげている。</p> <p>○新型コロナウイルス感染拡大防止のために、様々な行事や学校生活のあり方等の変更を余儀なくされたが、何とか調整を行うことができた。</p> <p>○ICT機器及びスタディサプリの導入に伴う業務を担うこととなったが、概ね果たすことができた。</p> <p>○新学習指導要領に基づく令和4年度入学生徒教育課程の作成を概ね完了することができた。</p> <p>○各年次各教室での実施にならざるを得なかった毎月1度の身だしなみ指導、毎朝の登校指導・通学マナー指導等、全教員の協力により効果的に実施できた。</p> <p>○外部人材との協力は、生徒の希望進路実現に大変効果的であった。</p> <p>○図書館利用につながる取組を継続して行った。</p> <p>○紙面によるPTA総会となったが、議事等への意識は例年よりあがった。</p> <p>○「fitアンケート」「教育相談アンケート」等を通して心のケアが必要な生徒に対し、早期発見早期対応ができた。</p> <p>○ボランティア活動を通じて、「子どもたちとの触れ合い方や異年齢の子どもたちが楽しむための方法など」について考えることができ、生徒自身の考え方や子どもに対する考え方が変わってきた。</p> <p>○清掃活動等を通じて、宇部市の歴史的文化的遺産について知ることができた。また、市民の方と触れ合うことで、自分の街をきれいにすることの大切さやこれまでの自分の成長にも多くの方の支えがあることに、再度確認できた。</p> <p>○会議時間は大幅に減少した。正規の時間内に通常業務が終わるように取り組んだ。</p> <p>○再検査を受けずに放置することのリスク等を折に触れ説明したことにより、再検査の受診率が大幅に向上した。</p>
【課題】	<p>○新型コロナウイルス感染症対策に伴う様々な変更、ICT機器及び学習教材の導入に伴う業務の追加、入学定員減による教員減に伴う授業編成のあり方等、業務はこれまで以上に膨れ上がっている。</p> <p>○多くの制約がある中で、生徒会を中心に少しでも多くのイベントができるように工夫していきたい。</p> <p>○生徒の読書習慣定着への手立て、コロナ禍でのPTA行事のあり方を検討していきたい。</p> <p>○生徒の進路意識を高めるような取組を行う。</p> <p>○新型コロナ感染症対策について、消毒殺菌・マスク着用・検温などを徹底するとともに、最新の情報を収集しながら生徒・職員が一体となって取り組む。</p> <p>○今後もコロナ禍の中で、ボランティア活動にも制約が多いと考えられる。感染対策に十分配慮した上で、実施できる活動に取り組んでいきたい。</p> <p>○校内での活動だけではなく、可能であれば、近隣の小中学校などとも協力して、高校生からの呼びかけで活動を継続をしていきたい。</p> <p>○一部の職員の負担が重くならないよう、適正な業務配置と平準化した業務分担を図っていきたい。</p>

7 次年度への改善策	
<p>○入学定員減による教員減が続くことが見込まれ、これまでのような単位制のあり方を維持することが難しくなると考える。業務も多忙を極めており、単位制自体を見直しながら業務のスリム化を図ることで本来の教育活動にける時間を確保することが望ましい。</p> <p>○様々な制約を考慮しながら、生徒会の生徒を中心に生徒の意見・要望を聞きながら行事を行ってきたい。</p> <p>○「総合的な探究の時間」では、ICTの活用等の工夫をしていきたい。</p> <p>○生徒の進路や教科に関する課題を、関係教員・保護者と共有して進路指導にあたる体制をつくる。</p> <p>○校内美化について、トイレ環境の整備・改善を図る。</p> <p>○校外活動を生徒会、ボランティア委員会、部活動などと協力し進めていく。</p> <p>○PTAに関する学校行事等をネット環境を使ってできる方法を検討したい。</p> <p>○校外での活動には、参加しにくい生徒もいるので、校内でもできる活動も考えていきたい。</p> <p>○保育や被服などの授業を選択する生徒が身につけた技術をいかして地域の方と交流できる方法などを考えていきたい。</p> <p>○最終退校時刻の徹底を促していきたい。繁忙期に休日を含む時間外が大幅に増えている。教職員の健康管理を徹底するとともに、意識啓発を図っていきたい。</p>	